

Newsletter

No. 39 March 31 2021

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点

特別寄稿

「親愛なる東京医科歯科大学の皆様へ」

チリ及びラテンアメリカにおける東京医科歯科大学の活動をお知らせする Newsletter の本号に寄稿させていただけることを非常に光栄に存じます。

ご存知のように、チリの大腸がん死亡率を減少させることを目的に、2010年にクリニカ・ラス・コンデス(以下CLC)、チリ保健省(以下MINSAL)及び東京医科歯科大学(以下TMDU)の間で三者協定が締結され、Programa Nacional de Neoplasias Colorrectales(以下PRENEC)という大腸がん早期診断プロジェクトが始まりました。PRENECを実施してきたマガジャネス州(チリの最南端)においては、ここ数年の大腸がん死亡率の上昇が抑えられてきており、この大腸がん予防戦略を立ち上げられたことを非常に誇りに思っております。発展途上国においてこの種の癌は増加の一途をたどり、公共政策が充分でないことから成す術がないのが一般的であるためこれは画期的な出来事です。これはひとえに、TMDUの指導者らの多大なる貢献によるものであったことを強調したいと思えます。

また、TMDUの協力により、チリの大腸がん検診プロジェクトを立ち上げただけでなく、コロンビア、ペルー、ポリビア、エクアドル、パラグアイの医療チームへの研修を行うこともできました。パラグアイはラテンアメリカにおいて最大の経済的困難を抱えている国の一つであるものの、大腸がん予防戦略が既に実施されており、良い成果が報告されています。

COVID-19のパンデミックの影響でPRENECの活動は休止状態になってしまったものの、ジョイント・ディグリー・プログラム(以下JDP)内で消化器系の医師を対象とした消化器腫瘍学に関する臨床及び研究の両面を含んだトレーニングプログラムを開始することができました。本プログラムは、チリ及びラテンアメリカの医師が、日本の医療と同じ水準に到達することを目的としています。

これまでの活動が認められ、この度、私は正式にチリ保健省における大腸がん分野の顧問に任命されました。私の使命は、PRENECのようながん予防ネットワークの開発を支援し、国内におけるがん研究と治療の為に様々な策を講じていくことです。TMDUとチリ大学の名に誇りをもって、これらの責務に取り組んでいく所存です。

大規模な集団ワクチン接種により、長いトンネルの先に光が見えるようになることを期待しています。2021年下半期には、学術活動や専門研修及び国内でのPRENECを再開できることを願っています。また、2022年初旬までには、TMDUからの協力を得て、チリ及びラテンアメリカの医師への消化器内視鏡トレーニングプログラムの再開も切望しています。改めまして、これまでのTMDUの協力に感謝の意を表します。

最後になりますが、皆様のご発展を祈念するとともに、我々はLACRCオフィスを通してラテンアメリカの公衆衛生に寄与できる道を構築し続けてまいります。

フランシスコ・ロペス チリ保健省大腸がん分野顧問・PRENEC責任者



LACRC TMDU
IN CHILE
Latin American Collaborative Research Center
Santiago de Chile



Contents

巻頭言(特別寄稿)	1
JDP	2
PRENECの進捗状況	4
LACRC活動報告	5

ジョイント・ディグリー・プログラム

チリにおける JDP のプログラム責任者であった植竹宏之教授の退職に伴い、昨年 12 月より絹笠祐介教授が学術委員会委員長に就任しました。新体制では、長堀正和准教授及び岡田卓也講師が学生の指導を担当することとなりました。

JDP 学部長会議

日本時間 3 月 16 日 (チリ時間 3 月 15 日) に本学及びチリ大学の学部長及び教授で構成される学部長会議がテレビ会議システムを用いて開催されました。本会議では、例年通り一年間の JDP の総括、自己点検・評価報告書について報告が行われました。これに加えて、本年はプログラムが始まってから 5 年目という節目であることから、プログラムの改善に焦点を当てた協議が行われました。今後のプログラムが充実したものとなるように、両大学が協力して運営を進めてまいります。



JDP 学部長会議の様子

JDP4 大学合同の教職員 FD 研修 (Faculty Development Seminar 2020) 開催

University of Chile, Chulalongkorn University, Mahidol University and TMDU
Joint Degree Doctoral Program in Medical Sciences

Faculty Development Seminar 2020

For all employees and students
March, 2021

University of Chile, Chulalongkorn University, Mahidol University and TMDU present

Taking Down The Splenic Flexure in Lap Colorectal Surgery: Why, When and How?
Dr. Mario Antonio Andrade Moreira
M.D., Chief of the Coloproctology unit, Associate Professor
Coloproctology Unit, Clinical Hospital Universidad de Chile, Coloproctology Unit, Clinica Las Condes

The role of Thai Royal Dental College in graduate studies in Thailand
Dr. Petchai Jantavisorn
D.D.S., M.S., Ph.D., Dean, Associate Professor
Department of Oral and Maxillofacial Surgery from Chulalongkorn University

Joint and double PhD programs in Mahidol University
Dr. Theeworschai Limjindapom
M.D., Ph.D., Deputy Dean of Postgraduate Education, Associate Professor
Department of Academy from Mahidol University

Changes in Education and Research activities in TMDU by Covid-19 pandemic
Dr. Seichi Akita
M.D., Ph.D., Deputy Director, International Exchange, Division Head, Joint Degree Program Advancement Division, Professor
Department of Clinical Anatomy from TMDU

Inquiry: JD&MPH unit: jd@ml.tmd.ac.jp

Inquiry: Joint Degree Team, Educational Planning Section (Ext.4676)

FD 研修ポスター

年に一度、本学とチリ大学の教員の能力向上と意識を共有するために両大学間で実施されている教職員 FD 研修が、本年 3 月に初の試みとなる JDP3 専攻 (チュラロンコン大学、チリ大学、マヒドン大学) 合同で行いました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、講演者は各大学にて講演を行うことになりましたが、時差の関係からリアルタイムでの開催が難しいため、各講演者の講演動画を一本の動画に集約し、各大学にてオンデマンドで開催することとなりました。本学からは秋田恵一教授に講演をいただき、コロナ禍における本学の教育・研究への取り組みを中心に講演をいただきました。それぞれの大学において進行している JDP の更なる向上に資するよう有意義な機会となりました。

本学教員によるオンライン指導

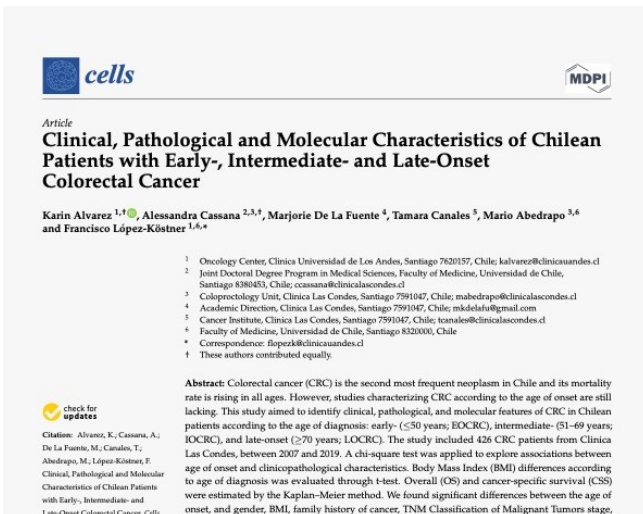


オンライン会議システムによる授業の様子

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、昨年4月に予定されていたJDP第一期生のディエゴ・サモラーノ医師の来日が、現在延期されています。今後の渡航の予定が立たないことから、プログラムの変更を余儀なくされていますが、これに対して岡田講師よりオンライン会議システムを通してオンライン指導という形で必修科目である「大腸肛門外科臨床応用Ⅱ（東京医科歯科大学）」の授業を実施しました。

二国間で構成されているプログラムのため、学修する上で学生は疑問や不安を抱くこともありますが、こういったオンラインによるサポートを通し、この困難な状況下にある学生の不安を少しでも払拭することにつながることを願います。

学術誌への論文掲載



学術誌Cellsオンライン版掲載記事

3月12日、本プログラムの国際連携医学系専攻第四期生であるアレサンドラ・カッサーナ医師、指導教官であるフランシスコ・ロペス医師、マリオ・アベドラポ医師及び研究者による論文「Clinical, Pathological and Molecular Characteristics of Chilean Patients with Early-, Intermediate- and Late-Onset Colorectal Cancer」が学術誌Cellsに掲載されました。

本研究では、2007年から2019年の間の426名のCLCの大腸がん患者を診断時の年齢別に若年層、中年層、高齢層の3つのグループに分けて解析することで、臨床的、病理学的、分子学的な特徴を報告しました。

このような研究はチリでは初めてのこととなり、今後のチリの大腸がん患者の診断や治療の一助となることが期待されます。

(参考URL: <https://www.mdpi.com/2073-4409/10/3/631/htm>)

PRENECの進捗状況

PRENECの最新情報をご報告いたします。昨年3月より新型コロナウイルスの影響を受けて全面的なPRENECの活動の休止が余儀なくされています。

また、昨年8月に、PRENEC責任者であるロペス医師がCLCを退職されました。PRENECは本学とCLC、チリ保健省の三者協定下に運営されていることから、CLCから離れてしまったロペス医師の今後の立場が懸念されましたが、巻頭言でも報告させていただきましたように、本年1月にチリ保健省の大腸がん分野の顧問及びPRENEC担当に就任することになりました。パンデミックの状況に左右されてしましますが、この新体制のもと、できるだけ早期にPRENECが再開できるよう取り組んでいく所存です。

サン・ボルハ病院の火災

1月30日、PRENECの拠点の一つである日智消化器病研究所のあるサン・ボルハ病院で大規模な火災が起き、入院・外来患者が避難する事態となりました。病院スタッフの懸命な対応で幸い死者が出ることはなかったもののこれによる被害は大きく、未だ通常診療の再開には至っていません。

過去のNewsletterでも紹介しているように、同研究所は本学との繋がりが深く、40年以上の歴史があります。PRENECにおいても、同研究所内に大腸内視鏡トレーニングコースが開設され、本学からの拠点員の活動の場として重要な役割を果たしてきました。また、国際協力機構（JICA）や外務省「草の根・人間の安全保障無償資金協力」等の支援を受けてチリの消化器医療に貢献してきた背景もあり、2017年には、秋篠宮皇嗣殿下・妃殿下がご視察に訪れました。

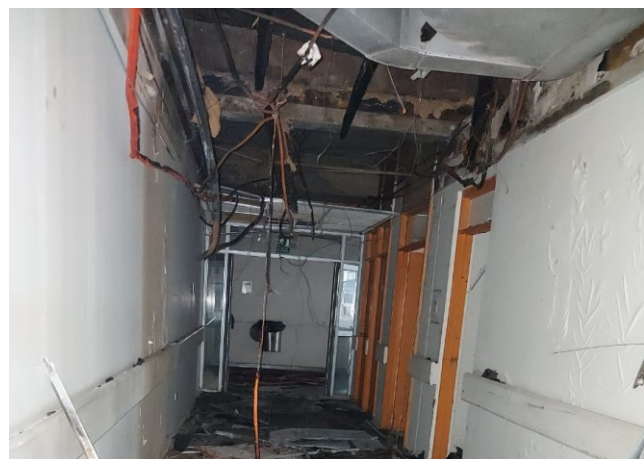
サン・ボルハ病院はチリ大学の主要関連病院の一つで、PRENECにおける重要な拠点である以外にも多くの役割を担ってきました。サンティアゴでの医療における影響は甚大であり、一日も早い復興を切に願っております。



日本及びチリの国旗を手にする日智消化器病研究所のスタッフ



火災後の建物上部の様子



天井が崩れ落ちた院内の様子

LACRC活動報告

ラテンアメリカ時報への記事掲載

ラテンアメリカ協会の季刊会報誌である「ラテンアメリカ時報(2020/21年冬号)」へ元LACRC派遣教員の小田柿智之助教の記事が掲載されました。

同協会は、1958年より日本とラテンアメリカ諸国との交流推進及び国内外への関連情報の発信を行っている伝統ある協会で、会員である企業、団体、個人、駐日ラテンアメリカ公館の他、全ラテンアメリカ諸国駐在の日本公館で広く配布されています。

今回、その会報誌内の「33か国リレー通信」の項で本学のラテンアメリカにおける歴史や取り組み、チリの医療事情等を紹介しました。ラテンアメリカと関係が深い方々へ本学の活動を周知する良い機会となりました。

(参考URL: <http://latin-america.jp>)



ラテンアメリカ協会会員専用ページ内の掲載記事

Euronewsへの出演



Euronewsオンライン版掲載記事

昨年12月に元LACRC派遣教員であり、本学附属病院国際医療部長である岡田卓也講師がEuronewsに出演しました。

Euronewsはヨーロッパの主要放送局のテレビニュースを伝えるニュース専門放送局です。

コロナ禍の日本における外国人の様子や、日本語の理解が十分でない方への本学の取り組みを紹介しました。

(参考URL: <https://www.euronews.com/2020/12/15/japan-an-inclusive-covid-19-response>)

編集後記

チリでは新型コロナワクチンの大規模な接種計画が進められています。チリではPfizer-BioNTec製、AstraZeneca-Oxford製、Sinovac製のワクチンが現在までに承認されており、さらにJohnson & Johnson製、CanSino製、ロシア製ワクチンの承認も今後見込まれていることからワクチンの供給は順調に進み、3月31日現在、人口の約3割強にあたる650万人以上が第一回目の接種を終えています。

有効性や安全性を注視しつつ、ワクチンが現況を打破してくれることを願います。(早川美貴)

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点
Latin American Collaborative Research Center
Newsletter No.39 March 2021

[発行日] 2021年3月31日

[制作] Latin American Collaborative Research Center
Tokyo Medical & Dental University
Clinica Las Condes
Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile
Tel: (56-2) 2610 3780
Email: LACRC-CHILE.adm@cmn.tmd.ac.jp